

【R&Iグリーンボンドアセスメント】

こなんウルトラパワー株式会社

こなんウルトラパワーグリーンボンド1号 : GA1 本評価

: セカンドオピニオン

(セカンドオピニオンとは、グリーンボンド原則等への適合性に関する意見です。)

格付投資情報センター(R&I)は上記のR&Iグリーンボンドアセスメント : GA1 (本評価)、セカンドオピニオンを公表しました。

【対象債券の概要】

名称	こなんウルトラパワーグリーンボンド1号
発行体	こなんウルトラパワー株式会社
発行額	1.1億円
R&Iグリーンボンドアセスメント	GA1 (本評価)
発行日	2019年2月25日
発行年限	15年

【概要】

こなんウルトラパワー株式会社 (以下、こなんウルトラパワー) は、滋賀県湖南市に2016年5月に設立された官民出資型の地域新電力事業者。電力を中心としたエネルギー事業によって、『湖南市地域自然エネルギー地域活性化戦略プランに掲げる基本方針』に掲げられた「エネルギー・経済の循環による地域活性化」、「自立分散型のエネルギー確保」、「地球温暖化防止への貢献」を実現することを事業目的とし、2016年10月から電力供給事業を開始している。

今般、湖南市内の物流センター2件の屋根置き型太陽光発電事業および湖南市内の学校施設4校のLED化事業のための資金としてグリーンボンドを発行するにあたり、グリーンボンド原則 (Green Bond Principles) の4基準である、調達資金の使途、プロジェクトの評価と選定のプロセス、調達資金の管理、レポーティングに関する発行体の対応方針であるグリーンボンドフレームワークを策定した。

【R&Iグリーンボンドアセスメント】

R&Iは、R&Iグリーンボンドアセスメントに定める評価方法に従い、本グリーンボンドの調達資金が環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高いと判断し、GA1 (本評価) を付与した。

【グリーンボンド原則等に適合する旨のセカンドオピニオン】

グリーンボンドフレームワークがグリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に則ったものである旨のセカンドオピニオンを提供する。

なお、今回発行する本グリーンボンドについて、債券の発行額や期間、具体的な対象事業・資産の内容や充当スケジュール等の内容を踏まえ、本フレームワークに則ったものとなっていることを確認している。

【評価理由】

- ・ 本グリーンボンドで調達された資金は、湖南省内の物流センター2件の屋根置き型太陽光発電事業および湖南省内の学校施設4校のLED化事業のための新規資金として全額充当される。資金使途は再生可能エネルギーおよびエネルギー効率化（ESCO）事業であり、環境問題の解決に資する度合いは非常に高いと判断した。また、工事に伴う騒音等の環境にネガティブな影響にも配慮がなされることを確認している。
- ・ 本グリーンボンドの対象事業は、発行体の役員が選定し、運営管理受託者であるパシフィックパワーにて対象事業の評価をとりまとめ、代表取締役2名が参加する発行体の定例会議にて説明し、承認を得る。最終的な決裁は、発行体の株主総会で得ており、組織的な選定プロセスを経ている。また、本プロジェクトは、『湖南省地域自然エネルギー地域活性化戦略プランに掲げる基本方針』である「エネルギー・経済の循環による地域活性化」、「自立分散型のエネルギー確保」、「地球温暖化防止への貢献」の実現に資する事業であることを規準とし、こなんウルトラパワーの事業目的に則ったものとなっている。
- ・ 本プロジェクトの総額は、本グリーンボンドによる調達資金を上回っている。調達資金は工事の進捗に応じて充当されるが、2019年2月の建設工事着工から、運用を開始する2019年4月までに全額の充当が完了する予定である。
- ・ 未充当資金は、こなんウルトラパワーの専用口座にて預金で管理される。調達資金および決済証憑文書等の管理は、発行体より管理を委託されたパシフィックパワーの経営管理部が行う。充当状況は社内システムで管理され、四半期ごとに確認がなされる。
- ・ レポートについては年に一度、こなんウルトラパワーのホームページにて、「グリーンプロジェクトの概要」、「充当金額」、「期待される環境改善効果（前提条件や算定方法を含む）」、「未充当資金がある場合は、その額または割合、充当予定時期、および運用方法」が開示される。
- ・ こなんウルトラパワーは、地域の新電力事業者として再生可能エネルギー導入事業や省エネルギー事業を通じて、地方創生と低炭素社会の実現に積極的に取り組んでいる。本グリーンボンドは、地域創生型のグリーンボンドとしても意義のあるグリーンボンドである。

R&Iグリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

■ 発行体(こなんウルトラパワー株式会社)の概要

こなんウルトラパワーは、2016年5月に設立された官民出資型の地域新電力事業者。出資者は、湖南省、湖南省商工会、甲西陸運、タカヒサ不動産、西村建設、美松電気、滋賀銀行といった地元の自治体や民間企業とパシフィックパワーの計8者から構成される。

電力を中心としたエネルギー事業によって、2015年2月に策定された『湖南省地域自然エネルギー地域活性化戦略プラン』に掲げる基本方針（エネルギー・経済の循環による地域活性化、自立分散型のエネルギー確保、地球温暖化防止への貢献）を実現することを目的とし、2016年10月から電力供給事業を開始している。

最大の出資者である湖南省とは、相互に連携し、地域の資源を活用した地域活性化の推進に資するため、設立時に包括的連携協定を締結している。市外に流出している電力料金を市内に還流させることでエネルギーと経済の循環を進め、地域経済の活性化につなげることを目的とし、将来的には、電力の小売りだけでなく、まちづくりなどの地域振興に関する事業にも取り組んでいくこととしている。

湖南省自身でも、2017年4月に「湖南省公共施設地球温暖化対策実行計画（第二期）」を制定し、公共施設の温室効果ガスの排出量削減や電気料金の低減に取り組んでいる。

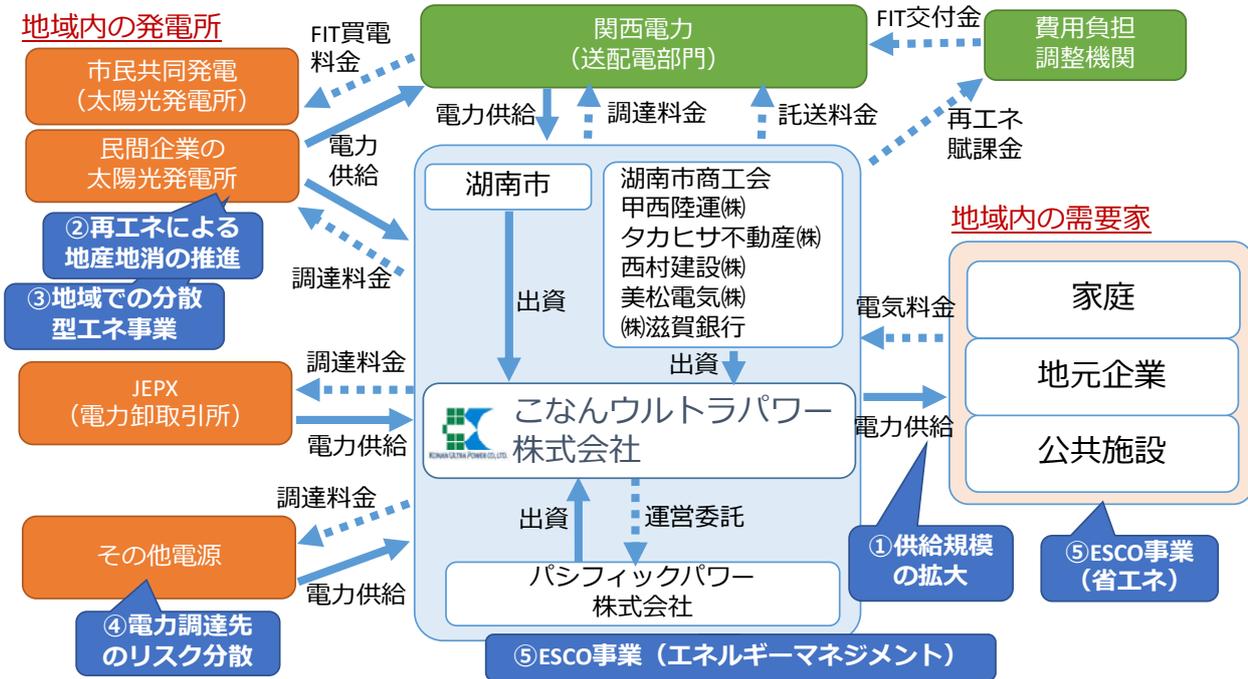
民間企業の最大出資者であり、発行体の経営管理受託者であるパシフィックパワーは、自治体新電力の立ち上げ支援、地域新電力の運営支援等を行うコンサルティング会社である。自治体新電力が、電力小売事業を通して電力の地産地消化を促進し、エネルギーの側面から地方創生を推進することを事業目的としている。2019年1月時点で10社の地域新電力を子会社として立ち上げており、こなんウルトラパワーもその一つである。

地元企業の最大出資者である甲西陸運株式会社は、自社の物流センターの屋根を利用した太陽光発電事業や廃油を原料としたバイオディーゼル燃料精製事業に取り組んでおり、環境改善への取り組みを積極的に推進している企業である。

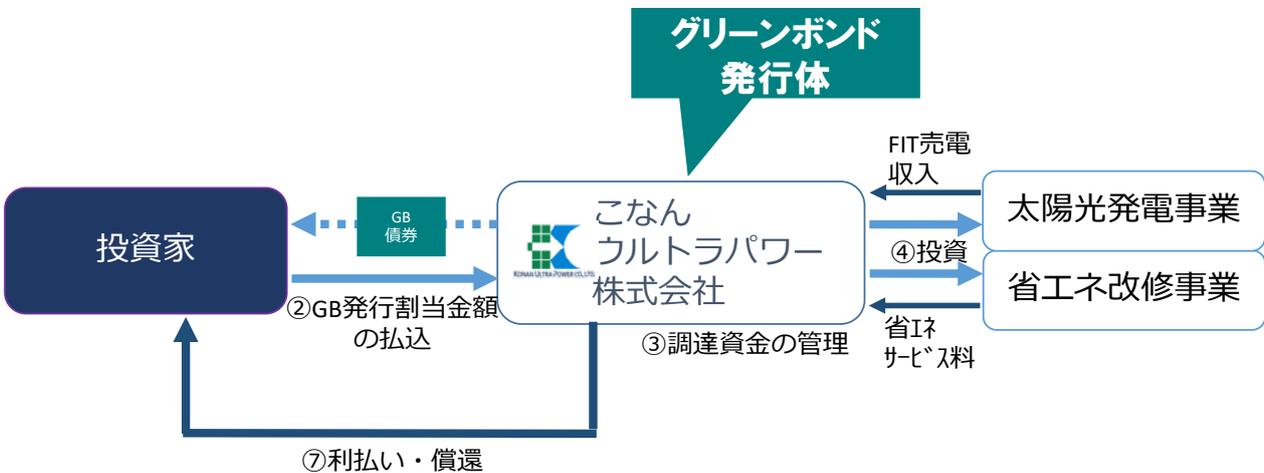
こなんウルトラパワーおよび経営管理を委託されたパシフィックパワーは、地域新電力事業を通して、地方創生に寄与するだけでなく、再生可能エネルギー由来の電力調達と再生可能エネルギー電源の保有を推進し、低炭素社会の実現も見据えた事業展開を目指している。

今般、こなんウルトラパワーは、こうした取り組みの一環としてグリーンボンドフレームワークを策定し、太陽光発電事業および学校施設のLED化によるエネルギー効率化事業に対し、グリーンボンドを発行する。グリーンボンドの発行は、同社が継続的に環境事業を推進していくうえで、様々なステークホルダーに対して同社事業への理解を深めてもらい、賛同を得る上においても貢献するものと考えている。

<こなんウルトラパワーの事業スキーム>



<本グリーンボンドのスキーム図>



■ グリーンボンドフレームワーク(こなんウルトラパワーグリーンボンド1号)の概要

こなんウルトラパワーは、グリーンボンド発行に当たり、グリーンボンド原則 (Green Bond Principles) の4基準である、調達資金の使途、プロジェクトの評価と選定のプロセス、調達資金の管理、レポーティングに関する発行体の対応方針であるグリーンボンドフレームワークを作成した。本フレームワークの概要は、以下の通りである。

1. 調達資金の使途 : Use of Proceeds

- グリーンボンドの調達資金は、以下の選定基準を満たす事業に全て新規資金として充当される。

区分	事業概要	充当割合
再生可能エネルギー	湖南省内の物流施設2件の太陽光発電事業	84%
エネルギー効率	湖南省内の学校施設4件のLED化事業	16%

- 対象事業は、こなんウルトラパワーが取り組む再生可能エネルギー事業およびエネルギー効率化事業である。各事業の概要は以下の通り。

(再生可能エネルギー事業)

- 湖南省内の物流施設の屋根上に太陽光パネルを設置し、太陽光発電を行う事業である。
- 対象となる物流施設は、地元企業の出資者である甲西陸運が保有する物流センター2件(夏見東物流センター、野洲川物流センター)である。
- 2019年2月にパネル設置工事の着工を行い、2019年4月より発電開始予定である。売電期間はともに20年で、甲西陸運と同期間の屋根の賃貸契約を締結している。
- 本事業の実施により、合計で年間364 (t-CO₂/年)のCO₂削減効果が見込まれる。太陽光パネルはパナソニック製のヘテロ接合型の製品で、曇りや雨の日でも一定程度発電する性能を備えている。なお、甲西陸運にとっては、太陽光パネルの設置により、夏場は40℃を超える高温となる倉庫内温度が低減するというメリットも得られる。

No.	対象施設	最大出力	パネル枚数	年間発電量
1	夏見東物流センター	266.24kW	832枚	275,681kWh
2	野洲川物流センター	273.28kW	854枚	298,021kWh

(エネルギー効率化事業)

- 湖南省内の小学校4校(湖南省立三雲東小、石部南小、菩提寺小、菩提寺北小)の体育館や職員室等を対象に現状の白熱電球や蛍光灯、水銀灯による照明設備をLED照明に更新する省エネ改修事業である。
- こなんウルトラパワーが設備を導入し、施設の所有権を有する湖南省は電気代および維持管理費の削減額以下の金額をサービス料としてこなんウルトラパワーに一定期間支払うESCO事業(湖南省の実質負担はゼロとなる)として行われる。
- LED照明の機器設置工事は2019年2月に開始し、翌3月中には全て完了する予定である。サービス契約期間は10年で、契約期間中はこなんウルトラパワーが保守管理を行う。

NEWS RELEASE

- ・ 本事業の実施により、合計で年間87 (t-CO2/年) のCO2削減効果が見込まれる。2018年にも市内の中学校2校を対象に同事業を実施しており、70%超の電力を削減し、省エネルギーを達成している。

No.	対象施設	対象設備	現状	更新後
1	三雲東小学校	①体育館 ②職員室等	水銀灯・白熱灯・蛍光灯×72台	LED灯×48台
2	石部南小学校	①体育館 ②職員室等	水銀灯・白熱灯・蛍光灯×74台	LED灯×50台
3	菩提寺小学校	①体育館 ②職員室等	水銀灯・白熱灯・蛍光灯×56台	LED灯×54台
4	菩提寺北小学校	①体育館 ②職員室等	水銀灯・白熱灯・蛍光灯×90台	LED灯×70台

白熱電球、蛍光ランプ、LEDランプのエネルギー効率等の比較

	白熱電球	電球形蛍光ランプ	電球形 LED ランプ
写真			
価格	62~100 円程度	280~1,000 円程度	1,000~3,000 円程度
エネルギー効率 (lm/W)	15 (54W,810lm)	68 (12W,810lm)	90 (9.4W,850lm)
寿命(参考)	1,000 時間	6,000~10,000 時間	20,000~40,000 時間
特徴	・安価	・省電力(白熱電球の約 1/4) ・長寿命(白熱電球の 6-10 倍)	・省電力(蛍光ランプの約 3/4) ・長寿命(蛍光ランプの 4-7 倍)

※最も広く使われている口金サイズのE26における比較。

※白熱電球60W相当品での比較。電球形LEDランプは昼白色相当。

※照明メーカーカタログより。

【出所】「総合資源エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会 省エネルギー小委員会 照明器具等判断基準ワーキンググループ 取りまとめ」(平成29年3月31日)を基にR&I加工

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目 22 番地 テラスクエア <https://www.r-i.co.jp>

R&I グリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対する R&I の意見であり、事実の表明ではありません。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&I グリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第 299 条第 1 項第 28 号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。R&I グリーンボンドアセスメントは、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&I は、R&I グリーンボンドアセスメントに際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&I は、R&I グリーンボンドアセスメント（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。R&I グリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき <https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧下さい。

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス: Process for Project Evaluation and Selection

- こなんウルトラパワーは、地域新電力事業者として『湖南省地域自然エネルギー地域活性化戦略プランに掲げる基本方針』に基づく「エネルギー・経済の循環による地域活性化」、「自立分散型のエネルギー確保」、「地球温暖化防止への貢献」の実現を事業目的として掲げている。

湖南省地域自然エネルギー地域活性化戦略プランに掲げる基本方針

(1) エネルギー・経済の循環による地域活性化の推進

地域固有の資源である自然エネルギーの活用を通して、エネルギーの循環だけでなく、その利益の地域循環や、市民・事業者の交流を促進することにより、地域活性化を推進します。

(2) 自立分散型のエネルギー確保

消費地に近い場所で発電等ができる自然エネルギーの特長を活かし、地域主導による自立分散型エネルギーの導入を促進し、市民の暮らしや地域産業を支えるエネルギーの地産地消を推進します。

(3) 地球温暖化防止への貢献

これらの取り組みを通じて、持続的発展が可能な社会の実現と地球温暖化防止をはじめとする地球環境保全への貢献を目指します。

こなんウルトラパワー 事業目的

湖南省地域自然エネルギー地域活性化戦略プランに掲げる基本方針の実現

- エネルギー・経済の循環による地域活性化
- 自立分散型のエネルギー確保
- 地球温暖化防止への貢献

- 当該事業目的に則り、地域新電力を基幹事業としつつ、再生可能エネルギー由来の電源を積極的に調達・保有し、地域エネルギーの地産地消の実現を企図している。また、自社事業の推進によって、地域への安価な電力の供給と再生可能エネルギーの普及を促進し、地域経済の発展と環境改善への貢献を目指している。
- グリーンボンドの対象として選定された事業は再生可能エネルギーおよび省エネルギー事業であり、こなんウルトラパワーの事業目的に即したものとなっている。
- 再生可能エネルギー事業、省エネルギー事業ともに、高い環境改善効果（CO2削減効果）が見込まれるほか、環境面や社会面における潜在的にネガティブな効果に配慮して設置工事および運営が行われる。

- ・ 事業の選定は発行体の役員が行い、運営管理受託者であるパシフィックパワーにて対象事業の評価をとりまとめる。代表取締役2名が参加する発行体の定例会議にて説明し、承認を得たうえで、発行体の株主総会で最終的に決議するプロセスとなっている。

3. 調達資金の管理 : Management of Proceeds

- ・ グリーンボンドで調達した資金は、発行体の専用口座で管理され、本グリーンプロジェクトのみを対象に充当される。
- ・ 調達資金の管理および決済に関する証憑文書等の管理は、発行体から経営管理委託を受けたパシフィックパワーの経営管理部が行う。
- ・ 本プロジェクトは2019年2月から建設工事を着工し、運用を開始する2019年4月までに調達資金の全額の充当を完了する見込みである。未充当資金は預金で管理され、四半期ごとに確認がなされる。
- ・ 万一本プロジェクトが中止になる等の事態が発生した場合は、ホームページ上で投資家に報告することとしている。

4. レポートニング : Reporting

- ・ 本グリーンボンドのレポートニングは、こなんウルトラパワーのウェブサイトにて年に1回開示することが予定されている。
- ・ レポートニングの主な内容は、①資金充当状況レポートニング、②インパクト・レポートニングを含む以下の4点である。
 - ▶ グリーンボンド発行により調達した資金を充当するグリーンプロジェクトの概要
 - ▶ グリーンプロジェクトに充当した資金の額
 - ▶ グリーンプロジェクトを実施することによって期待される環境改善効果（前提条件や算定方法を含む）
 - ▶ 未充当資金がある場合は、その額または割合、充当予定時期、および運用方法

■ グリーンボンドフレームワークに対する評価（セカンドオピニオン）

R&Iは、R&Iグリーンボンドアセスメントの評価方法に則り、こなんウルトラパワーの作成するグリーンボンドフレームワークが、グリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に適合しているか否かの確認を行った。

1. 調達資金の用途: Use of Proceeds

グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資されるためには、まず調達資金の充当先である対象事業が、環境問題の解決に資する事業である必要がある。

主な評価の根拠

- ・ 本フレームワークの内容の確認
- ・ 本グリーンボンドの対象事業の内容の確認

評価

- ・ 本フレームワークでは、調達資金はこなんウルトラパワーが取り組む再生可能エネルギー事業およびエネルギー効率化事業に充当される。
- ・ 本件の対象事業は、再生可能エネルギーの一種である太陽光発電事業およびエネルギー効率化事業の一種であるLED化事業であり、ともに十分な環境改善効果（CO2削減効果）が想定できるグリーン適格資産である。
- ・ R&Iは、(1) 対象事業から十分な環境改善効果が見込めるか、(2) 工事期間、運営期間において環境面における潜在的にネガティブな効果への配慮がなされているかについて、こなんウルトラパワーとの面談や書面確認、対象資産の実地調査等にて確認を行った。
- ・ (1) について、物流施設の屋根上における太陽光発電事業および学校施設の省エネ改修事業（LED化事業）であり、十分な環境効果が見込めるグリーン適格事業である。また、いずれの事業も大規模で特殊な工事を伴うものではなく、1~2カ月程度の工期で完了する実現可能性の高い事業であると考えられる。事業の実現後は、太陽光発電事業においては一定の発電量、LED化事業においては大幅な電力量の削減が見込まれ、これらに基づく十分なCO2削減効果が想定される。
- ・ (2) について、太陽光発電事業は屋根上設置型のため造成や伐採等を一切伴わず、また、周辺環境を踏まえると住宅への反射光の懸念も特段ない。LED照明の設置工事に関しても環境への悪影響は特段想定されない工事となっている。また、いずれの対象施設も騒音等への懸念は限定的な立地であるものの、工事を行う事業者によって防音等の対策を行い、影響を最小限にとどめる予定であることを確認した。

以上より、本フレームワークにおける調達資金の用途は、グリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に則ったものとなっていると判断した。

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス: Process for Project Evaluation and Selection

グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資されるためには、発行体がなぜ対象事業を環境問題に資する事業であると考え、どのようにして選定したのかというプロセスが、明確かつ合理的である必要がある。

主な評価の根拠

- ・ 本フレームワークの内容の確認
- ・ こなんウルトラパワーの事業目的

評価

- ・ 対象事業は、こなんウルトラパワーの事業目的に則ったものとなっている。
- ・ 対象事業は、十分な環境改善効果が見込め、環境面や社会面における潜在的にネガティブな効果に対する配慮がなされている。
- ・ 本グリーンボンドの対象事業は、発行体の役員が選定し、運営管理受託者であるパシフィックパワーにて対象事業の評価をとりまとめ、代表取締役2名が参加する発行体の定例会議にて説明し、承認を得る。最終的な決裁は、発行体の株主総会で得ており、組織的な選定プロセスを経ている。
- ・ また、本プロジェクトは、『湖南市地域自然エネルギー地域活性化戦略プランに掲げる基本方針』である「エネルギー・経済の循環による地域活性化」、「自立分散型のエネルギー確保」、「地球温暖化防止への貢献」の実現に資する事業であることを規準とし、こなんウルトラパワーの事業目的に則ったものとなっている。

以上より、本フレームワークにおける対象事業の選定のプロセスは、グリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に則ったものとなっていると判断した。

3. 調達資金の管理: Management of Proceeds

グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資されるためには、調達資金が他の事業に使われず、確実に対象事業に充当される必要がある。

主な評価の根拠

- ・ 本フレームワークの内容の確認

評価

- ・ グリーンボンドで調達した資金は、発行体の専用口座で管理され、本グリーンプロジェクトのみを対象に充当される。
- ・ 調達資金および決済証憑文書等の管理業務は、発行体より管理を委託されたパシフィックパワーの経営管理部が行い、発行体の社内システムを用いて四半期ごとに充当状況の確認がなされる。
- ・ 未充当資金は専用口座にて預金で管理される予定であるが、調達から2カ月以内には調達資金全額の充当が完了する見込みである。

以上より、本フレームワークにおける調達資金管理の方針は、グリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に則ったものとなっていると判断した。

4. レポーティング: Reporting

グリーンボンドの調達資金が、調達後環境問題の解決に資する事業に投資されたことが明らかとなるためには、どのような事業にいつ充当され、その結果どのような環境改善効果があったかを、発行体がレポーティングすることが期待される。

主な評価の根拠

- ・ 本フレームワークの内容の確認
- ・ レポーティングの開示予定内容の確認

評価

- ・ 本グリーンボンドのレポーティングは、年に一度、こなんウルトラパワーのウェブサイトにて行われる予定である。
- ・ 内容は、資金充当状況レポーティングと個別プロジェクトごとのインパクト・レポーティング（CO2削減量）以外にも、グリーンプロジェクトの概要や未充当資金がある場合はその金額・割合・充当予定時期・運用方法を含む充実した内容となることが予定である。

以上より、本フレームワークにおけるレポーティングは、グリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に則ったものとなっていると判断した。

＜総合評価＞

R&Iは、R&Iグリーンボンドアセスメントの評価方法に則り、本フレームワークが、グリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に則ったものとなっていると判断した。

本セカンドオピニオンは、今回発行するグリーンボンドにのみ適用されるものであって、2回目以降に発行される際には、再度確認の上ニュースリリースを行う。

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp
■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目 22 番地 テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

R&I グリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対する R&I の意見であり、事実の表明ではありません。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&I グリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第 299 条第 1 項第 28 号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。R&I グリーンボンドアセスメントは、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&I は、R&I グリーンボンドアセスメントに際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&I は、R&I グリーンボンドアセスメント（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。R&I グリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき <https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

■ 本グリーンボンドに対する評価

R&Iは、R&Iグリーンボンドアセスメントの評価方法に則り、本グリーンボンドにおいて予定されている発行額や期間、具体的な対象プロジェクトの内容や充当スケジュール等が、本フレームワークの内容に則ったものとなっているか確認を行った。また、本フレームワークの内容や本グリーンボンドにおける具体的な対応の内容を踏まえ、本グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対する評価を行った。

1. 調達資金の使途: Use of Proceeds

- ・ 本グリーンボンドの対象プロジェクトは、本フレームワークにおける対象事業である再生可能エネルギーおよびエネルギー効率化事業を対象に選定されており、グリーンボンドフレームワークに則った内容となっている。
- ・ R&Iは、本フレームワークに対する評価と同様に (1) 事業から十分な環境効果が見込めるか (事業の実現可能性を含む)、(2) 工事期間、運営期間中に環境にマイナスの影響を与える恐れがないか、を確認した。
- ・ この結果、対象プロジェクトは十分な環境改善効果が見込まれ、かつ環境面における潜在的にネガティブな効果に配慮して工事、運営がなされる予定であることを確認した。
- ・ 充当予定のプロジェクトは対象事業のみであり、事業総額が調達額を上回るものとなっている。

以上より、本グリーンボンドの資金使途は、環境問題の解決に資する程度が特に優れていると判断した。

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス: Process for Project Evaluation and Selection

- ・ 本グリーンボンドの対象事業は、発行体が定めた本フレームワークに基づき、発行体の役員により選出され、経営管理受託者であるパンフィックパワーによる評価が行われた後、発行体内部の承認を得たうえで株主総会にて決議され、選定されていることを確認した。
- ・ R&Iは、本グリーンボンドのプロジェクトの評価と選定のプロセスは、明確かつ合理的であり、優れていると判断した。

3. 調達資金の管理: Management of Proceeds

- ・ 本グリーンボンドは、発行体が定めた本フレームワークに基づき、本プロジェクトの専用口座で調達資金が管理される予定であることを確認した。
- ・ また、対象事業は1~2カ月程度の工期で完了する実現可能性の高い事業と考えられる。
- ・ R&Iは、本グリーンボンドの調達資金の管理方法は、適切に定められており、特に優れていると判断した。

4. レポーティング: Reporting

- ・ 本グリーンボンドは、発行体が定めた本フレームワークに基づき、年に1度、資金充当状況と環境改善効果を含むレポーティングが行われる予定であることを確認した。
- ・ R&Iは、本グリーンボンドのレポーティング方針は、内容、頻度の面から優れていると判断した。

5. 発行体の環境活動

グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度は、発行体の環境活動への取り組み姿勢や取り組み実績が影響すると考えられる。これは、環境活動に関心が高く実績のある発行体の方が、調達資金を環境問題の解決に資する事業に充当し、遂行する可能性が高いと考えるためである。

- ・ こなんウルトラパワーは、地域の新電力事業者として地域の環境方針や戦略に基づき、再生可能エネルギー導入事業や省エネルギー事業を通じて、地方創生と低炭素社会の実現に積極的に取り組んでいる。
- ・ 出資者は、環境活動に積極的な自治体や民間企業から構成されている。
 - 最大出資者である湖南省は、地球温暖化対策実行計画を制定し、公共施設の温室効果ガスの排出量削減や電気料金の低減に取り組んでおり、環境対策を積極的に推進する自治体である。
 - 民間企業の最大出資者であり発行体の経営管理受託者であるパシフィックパワーは、低炭素化の担い手となる自治体新電力の立ち上げ支援、地域新電力の運営支援等を行うコンサルティング会社として複数の実績を有している。
 - 地元企業の最大出資者である甲西陸運は、自社の物流センターの屋根を利用した太陽光発電事業や廃油を原料としたバイオディーゼル燃料精製事業に取り組んでおり、環境改善への取り組みを自社でも積極的に推進する出資者から構成されている。
- ・ こなんウルトラパワーは、本対象事業と同様のエネルギー効率化事業において、これまでに湖南省内の中学校2校の体育館LED化事業を実施し、省エネルギー効果の高い取り組みを行っている。中長期的には、電力供給規模の拡大、地域の再生可能エネルギー調達の拡大、地域での保有電源の確保（分散型エネルギー事業）、ESCO事業の本格化（公共施設・民間施設の省エネ、エネルギーマネジメントサービスをESCOスキームで展開）などに取り組む方針としている。

以上より、こなんウルトラパワーの環境活動への取り組み姿勢は優れていると判断した。

＜総合評価＞

以上より、本グリーンボンドは、発行体が定めた本フレームワークに基づき発行される予定であり、グリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン 2017 年版の 4 要件に適合したグリーンボンドであると判断した。

また、R&I は、R&I グリーンボンドアセスメントに則り、本グリーンボンドの評価を行った。各項目の評価を基に総合評価を行い、R&I は評価対象のグリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高いと判断し、GA1（本評価）を付与した。各項目における評価は、下記の通りである。

【項目別評価】

各項目を5段階で評価し、（最上位）から（最下位）で表示している。

項目	評価	概要
調達資金の使途		対象となる太陽光発電事業およびエネルギー効率化事業は、十分な環境改善効果が見込めるほか、環境面における潜在的にネガティブな効果に配慮して設置工事、運営がなされる。環境問題の解決に資する程度が特に優れていると判断した。
プロジェクトの評価と選定のプロセス		本グリーンボンドのプロジェクトの評価と選定のプロセスは、明確かつ合理的であり、優れていると判断した。
調達資金の管理		本グリーンボンドの調達資金の管理方法は、適切に定められており、特に優れていると判断した。
レポートニング		本グリーンボンドのレポートニング方針は、内容、頻度の面から優れていると判断した。
発行体の環境活動		地域の環境方針・戦略に基づく事業目的を掲げ、これに則った環境活動を積極的に推進している。発行体の環境活動への取組み姿勢は、優れていると判断した。

R&Iグリーンボンドアセスメントの評価方法は以下のホームページに公開されています。

https://www.r-i.co.jp/rating/products/green_bond/assessment.html

R&IのR&Iグリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対するR&Iの意見です。R&Iグリーンボンドアセスメントでは、グリーンボンドフレームワークに関してのセカンドオピニオンを付随的に提供する場合があります。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

R&Iグリーンボンドアセスメントは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&IはR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&IがR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報は、R&Iがその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、R&Iは、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&Iは、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&Iは、資料・情報の不足や、その他の状況により、R&Iの判断でR&Iグリーンボンドアセスメントを保留したり、取り下げたりすることがあります。

R&Iは、R&IがR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報、R&IのR&Iグリーンボンドアセスメントその他の意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やR&Iグリーンボンドアセスメントの使用、あるいはR&Iグリーンボンドアセスメントの変更・保留・取り下げ等に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとします）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。R&Iグリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。

R&Iが評価対象の評価に用いる評価方法は、R&Iが独自の分析、研究等に基づいて作成したR&Iの意見の表明にすぎず、R&Iは、評価方法の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。また、R&Iは、評価方法の開示によって、いずれかの者の投資判断や財務等に関する助言を行い、又は投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、評価方法の内容、使用等に関して使用者その他の第三者に発生する損害等につき、請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、何ら責任を負いません。評価方法に関する一切の権利・利益（特許権、著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、R&Iに帰属します。R&Iの事前の書面による許諾無く、評価方法の全部又は一部を自己使用の目的を超えて使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）し、又は使用する目的で保管することは禁止されています。

グリーンボンド／グリーンボンド・プログラム

独立した外部レビューフォーム

セクション 1. 基本情報

発行体名：こなんウルトラパワー株式会社

グリーンボンドの ISIN 又は 発行体のグリーンボンド発行に関するフレームワーク名（該当する場合）：

独立した外部レビュー実施者名：格付投資情報センター

本フォーム記入完了日：2019年2月25日

レビュー発表日：2019年2月25日

セクション 2. レビュー概要

レビュー範囲

必要に応じて、レビューの範囲を要約するために以下の項目を利用又は採用する。

本レビューでは、以下の要素を評価し、グリーンボンド原則（以下、GBP）との整合性を確認した：

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

独立した外部レビュー実施者の役割

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/レーティング（格付け） |
| <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）： | |

注記：複数のレビューを実施又は異なる複数のレビュー実施者が存在する場合、それぞれ別々の用紙にご記入ください。

Latest update: June 2018

レビューのエグゼクティブサマリーおよび/またはレビュー全文へのリンク (該当する場合)

【R&I グリーンボンドアセスメント】

R&I は、R&I グリーンボンドアセスメントに定める評価方法に従い、本グリーンボンドの調達資金が環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高いと判断し、GA1 を付与した。

【グリーンボンド原則等に適合する旨のセカンドオピニオン】

また、グリーンボンドフレームワークがグリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に則ったものである旨のセカンドオピニオンを提供する。

レビュー全文は、本リリースの本文を参照。

セクション 3. レビュー詳細

レビュー実施者には可能な限り以下の情報を提供し、レビュー範囲を説明するためにコメントセクションを利用するよう推奨する。

1. 調達資金の使途

セクションに関する全般的なコメント (該当する場合) :

<本フレームワークについて>

本フレームワークでは、調達資金はこなんウルトラパワーが取り組む再生可能エネルギー事業およびエネルギー効率化事業に充当される。

本件の対象事業は、再生可能エネルギーの一種である太陽光発電事業およびエネルギー効率化事業の一種である LED 化事業であり、ともに十分な環境改善効果 (CO2 削減効果) が想定できるグリーン適格資産である。

R&I は、(1) 対象事業から十分な環境改善効果が見込めるか、(2) 工事期間、運営期間において環境面における潜在的にネガティブな効果への配慮がなされているかについて、こなんウルトラパワーとの面談や書面確認、対象資産の実地調査等にて確認を行った。

(1) について、物流施設の屋根上における太陽光発電事業および学校施設の省エネ改修事業 (LED 化事業) であり、十分な環境効果が見込めるグリーン適格事業である。また、いずれの事業も大規模で特殊な工事を伴うものではなく、1~2 カ月程度の工期で完了する実現可能性の高い事業であると考えられる。事業の実現後は、太陽光発電事業においては一定の発電量、LED 化事業においては大幅な電力量の削減が見込まれ、これらに基づく十分な CO2 削減効果が想定される。

(2) について、太陽光発電事業は屋根上設置型のため造成や伐採等を一切伴わず、また、周辺環境を踏まえると住宅への反射光の懸念も特段ない。LED 照明の設置工事に関しても環境への悪影響は特段想定されない工事となっている。また、いずれの対象施設も騒音等への懸念は限定的な立地であるものの、工事を行う事業者によって防音等の対策を行い、影響を最小限にとどめる予定であることを確認した。

以上より、本フレームワークにおける調達資金の使途は、グリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に則ったものとなっていると判断した。

<本グリーンボンドについて>

本グリーンボンドの対象プロジェクトは、本フレームワークにおける対象事業である再生可能エネルギーおよびエネルギー効率化事業を対象に選定されており、グリーンボンドフレームワークに則った内容となっている。

R&Iは、本フレームワークに対する評価と同様に（1）事業から十分な環境効果が見込めるか（事業の実現可能性を含む）、（2）工事期間、運営期間中に環境にマイナスの影響を与える恐れがないか、を確認した。

この結果、対象プロジェクトは十分な環境改善効果が見込まれ、かつ環境面における潜在的にネガティブな効果に配慮して工事、運営がなされる予定であることを確認した。

充当予定のプロジェクトは対象事業のみであり、事業総額が調達額を上回るものとなっている。

以上より、本グリーンボンドの資金使途は、環境問題の解決に資する程度が特に優れていると判断した。

GBPによる調達資金の使途カテゴリ：

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input checked="" type="checkbox"/> エネルギー効率 |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止および管理 | <input type="checkbox"/> 生物自然資源および土地利用に係る環境持続型管理 |
| <input type="checkbox"/> 陸上および水生生物の多様性の保全 | <input type="checkbox"/> クリーン輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源および廃水管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応 |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス | <input type="checkbox"/> グリーンビルディング（環境配慮型ビル） |
| <input type="checkbox"/> 発行時には知られていなかったが現在 GBP カテゴリへの適合が予想されている、又は、GBP でまだ規定されていないその他の適格分野 | <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）： |

GBPの事業区分に当てはまらない場合で、環境に関する分類がある場合は、ご記入ください：

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

<本フレームワークについて>

対象事業は、こなんウルトラパワーの事業目的に則ったものとなっている。

対象事業は、十分な環境改善効果が見込め、環境面や社会面における潜在的にネガティブな効果に対する配慮がなされている。

本グリーンボンドの対象事業は、発行体の役員が選定し、運営管理受託者であるパシフィックパワーにて対象事業の評価をとりまとめ、代表取締役2名が参加する発行体の定例会議にて説明し、承認を得る。最終的な決裁は、発行体の株主総会で得ており、組織的な選定プロセスを経ている。

また、本プロジェクトは、『湖南省地域自然エネルギー地域活性化戦略プランに掲げる基本方針』である「エネルギー・経済の循環による地域活性化」、「自立分散型のエネルギー確保」、「地球温暖化防止への貢献」の実現に資する事業であることを規準とし、こなんウルトラパワーの事業目的に則ったものとなっている。

以上より、本フレームワークにおける対象事業の選定のプロセスは、グリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に則ったものとなっていると判断した。

<本グリーンボンドについて>

本グリーンボンドの対象事業は、発行体が定めた本フレームワークに基づき、発行体の役員により選出され、経営管理受託者であるパシフィックパワーによる評価が行われた後、発行体内部の承認を得たうえで株主総会にて決議され、選定されていることを確認した。

R&Iは、本グリーンボンドのプロジェクトの評価と選定のプロセスは、明確かつ合理的であり、優れていると判断した。

評価と選定

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 十分な発行体の環境面での持続可能性に係る目標がある | <input checked="" type="checkbox"/> 文書化されたプロセスにより、定義された事業区分にプロジェクトが適合すると判断される |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの適格プロジェクトを定義した透明性の高いクライテリアがある | <input checked="" type="checkbox"/> 文書化されたプロセスにより、プロジェクトに関連する潜在的なESGリスクは特定・管理される |
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定のためのクライテリアの概要が、公表される | <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）： |

責任およびアカウンタビリティに関する情報

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 外部機関の助言または検証を受けた評価／選定基準である | <input checked="" type="checkbox"/> 組織内で定められた評価基準である |
| <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）： | |

3. 調達資金の管理

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

<本フレームワークについて>

グリーンボンドで調達した資金は、発行体の専用口座で管理され、本グリーンプロジェクトのみを対象に充当される。

調達資金および決済証憑文書等の管理業務は、発行体より管理を委託されたパシフィックパワーの経営管理部が行い、発行体の社内システムを用いて四半期ごとに充当状況の確認がなされる。

未充当資金は専用口座にて預金で管理される予定であるが、調達から2カ月以内には調達資金全額の充当が完了する見込みである。

以上より、本フレームワークにおける調達資金管理の方針は、グリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に則ったものとなっていると判断した。

<本グリーンボンドについて>

本グリーンボンドは、発行体が定めた本フレームワークに基づき、本プロジェクトの専用口座で調達資金が管理される予定であることを確認した。

また、対象事業は1~2カ月程度の工期で完了する実現可能性の高い事業と考えられる。

R&Iは、本グリーンボンドの調達資金の管理方法は、適切に定められており、特に優れていると判断した。

調達資金の追跡管理：

- グリーンボンドの調達資金は、発行体により適切な方法で分別又は追跡管理される
- 未充当資金について、想定される一時的な運用方法の種類が開示される
- その他（明記ください）：

追加的な開示：

- 将来の投資にのみ充当
- 個別単位の支出に充当
- 未充当資金のポートフォリオを開示する
- 既存および将来の投資に充当
- ポートフォリオ単位の支出に充当
- その他（ご記入ください）：

4. レポートニング

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

<本フレームワークについて>

本グリーンボンドのレポートニングは、年に一度、こなんウルトラパワーのウェブサイトにて行われる予定である。

内容は、資金充当状況レポートニングと個別プロジェクトごとのインパクト・レポートニング（CO2削減量）以外にも、グリーンプロジェクトの概要や未充当資金がある場合はその金額・割合・充当予定時期・運用方法を含む充実した内容となることが予定である。

以上より、本フレームワークにおけるレポートニングは、グリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に則ったものとなっていると判断した。

<本グリーンボンドについて>

本グリーンボンドは、発行体が定めた本フレームワークに基づき、年に1度、資金充当状況と環境改善効果を含むレポートニングが行われる予定であることを確認した。

R&Iは、本グリーンボンドのレポートニング方針は、内容、頻度の面から優れていると判断した。

調達資金の使途に関するレポートニング：

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input type="checkbox"/> プロジェクトポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 個別債券単位 | <input type="checkbox"/> その他（明記ください）： |

レポートニングされる情報：

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 充当した資金の額 | <input type="checkbox"/> 投資総額に占めるグリーンボンドによる調達額の割合 |
| <input type="checkbox"/> その他（明記ください）： | |

頻度：

- | | |
|--|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年次 | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> その他（明記ください）： | |

環境改善効果に関するレポートニング：

- プロジェクト単位 プロジェクトポートフォリオ単位
 個別債券単位 その他（明記ください）：

頻度：

- 年次 半年に一度
 その他（明記ください）：

レポートニングされる情報（計画又は実績）：

- 温室効果ガス排出量／削減量 エネルギー削減量
 水使用量の減少 その他 ESG 指標（明記ください）：

開示方法

- 財務報告書に掲載 サステナビリティ報告書に掲載
 臨時に発行される文書に掲載 その他（明記ください）：ウェブサイト
 レポートニングは外部レビュー済（該当する場合は、レポートのどの部分が外部レビューの対象であるか明記してください）：

該当する場合は、「有益なリンク」のセクションに、報告書の名称、発行日を明記してください。

有益なリンク（例えば、レビュー実施者の評価方法や実績、発行体の文書等。）

R&I グリーンボンドアセスメント評価方法

https://www.r-i.co.jp/rating/products/green_bond/assessment.html

該当する場合は、利用可能なその他外部レビューをご記入ください

実施されるレビューの種類：

- セカンドオピニオン 認証
 検証 スコアリング/レーティング（格付け）
 その他（ご記入ください）：

レビュー実施者：

発表日：

GBP で定義された独立した外部レビュー機関の役割について

- (i) セカンドオピニオン：発行体の支配下でない環境面の専門性を有する機関がセカンドオピニオンを提供する。オピニオンの提供者は発行体のグリーンボンドフレームワーク構築のためのアドバイザーから独立しているべきである。そうでなければ情報隔壁を設けるなど、セカンドオピニオンの独立性を確保するための措置をとることになる。オピニオンは通常はGBPへの適合性評価を基本とする。特に環境面での持続可能性に関する包括的な目標、戦略、方針、プロセスの評価と、調達資金を充当するプロジェクトの種類に応じた環境面の特徴に対する評価を含むことができる。
- (ii) 検証：発行体は、事業プロセスや環境基準などに関連づけて設定する基準に対して独立した検証を受けることができる。検証は、内部基準や外部基準あるいは発行体が作成した要求との適合性に焦点を当てるものになる。また原資産の環境面での持続可能性に係る特徴についての評価を検証と称し、外部クライテリアを参照することがある。さらにグリーンボンドで調達される資金の内部追跡管理方法とその資金の充当状況、環境面での影響、GBPのレポートイングとの適合性に関する保証や証明も検証と呼ぶことがある。
- (iii) 認証：発行体は、グリーンボンドやそれに関連するグリーンボンド・フレームワーク、または調達資金の使途について、一般に認知されているグリーン基準やグリーンラベルへの適合性に係る認証を受けることができる。グリーン基準やグリーンラベルは具体的なクライテリアを定義したもので、通常は認証クライテリアとの適合性を、検証などの手法を用いて、資格認定された第三者機関が確認する。
- (iv) スコアリング/レーティング（格付け）：発行体は、グリーンボンド、それに関連するグリーンボンド・フレームワーク、調達資金の使途などの特徴について、専門的な調査機関や格付機関の資格を有する第三者機関から、それぞれの機関が確立した評価手法に基づく査定や評価を受けることができる。評価結果には、環境面のパフォーマンスデータ、GBPに関連するプロセス、2°C目標のようなベンチマークなどに焦点を当てたものが含まれることがある。このようなスコアリングや格付は、信用格付（たとえその中に重要な環境面のリスクが反映されているとしても）とはまったく異なったものである。